

「よく学び 心ゆたかに やりぬく子」



# 新座小だより



開校22年目

埼玉県新座市新座 3-4-1 TEL 048-478-2760  
<http://www.c-niiza.ed.jp/e-niiza>

令和7年度春休み号  
児童数：289名

一年間、ありがとうございました。

校長 小俣 優子



桜の花が開花し、校庭の木々にも春の息吹が感じられる季節となりました。

一昨日、卒業証書授与式を無事に終え、6年生が新座小学校を巣立っていきました。厳かな雰囲気の中、卒業生はもちろん、在校生の代表として参列した5年生も大変立派な態度で式に臨みました。

そして本日、242名の児童に、修了証を渡しました。どの子も一年間で心身ともに大きく成長することができました。

さて、以下に私が好きな詩を紹介します。

未完の姿で完結している

大槻 武治

ああでなければならない  
こうでなければならない  
いろいろに思いをめぐらしながら子どもを見る  
とき  
子どもは実に不完全なものであり  
鍛えて一人前にしなければならないもの  
のようなものである

いろいろなとらわれを棄て  
柔らかな心で子どもをよく見るとき  
そのしぐさのひとつひとつがじつにおもしろく  
はじける生命のあかしとして目に映ってくる  
「生きたい、生きたい」と言い  
「伸びたい、伸びたい」と全身で言いながら  
子どもは今そこに未完の姿で完結している

「こうなってほしい。」「こうでなければ・・・」という願いをもって私たち大人は子育てしています。そういった中、よく見てみると春に芽吹く木々のように、少しずつ、少しずつ子供が成長していることに気付くことがあります。今は未完成かもしれませんが、その時点では完結していて、それがこの先、様々な経験や人との出会いなどを経てさらに伸びてゆき、やがて大きく実を結びます。教員や家族など身近な大人の温かい声かけは、日光や水と同じで、子供たちがすくすく伸びていくためには欠かせないものです。前回の学校だよりでもお願いしました通り、できていないことよりも、少しずつでも伸びようとしている姿に目を向け、次への意欲につなげていただくようお願いいたします。

末筆になりますが、保護者の皆様、地域の皆様には、この一年間、本校の教育活動へ御理解・御協力をくださいましたことに、心より感謝申し上げます。

